

1. サテライト施設の概要について

1	名称	特別養護老人ホーム サテライト型新型特養フロイデハイム	
2	開設年	2006年9月1日	
3	所在地	下関市彦島西山町3丁目12番14号	
4	本体との距離	路線距離:14.4km 移動時間:車30分~40分	
5	建物階数	地上:2階(斜面地を利用しており各階に外部玄関がある)	
6	敷地面積	1606.95㎡	
7	建築面積・延床面積	建築面積:465.30㎡、延床面積:900.33㎡	
8	都市計画区域区分	市街化調整区域、建蔽率70%、容積率200%	
9	土地・建物の所有形態	土地:法人の自己所有、建物:法人の自己所有	
10	建物の構造	RC造	
11	併設サービス	なし	
12	建設費	建設費用	約2億円
		うち交付金額	なし
	リース代	—	
	ホテルコスト	59,100円/月(1,970円/日)	
	食費	60,000円/月(1,500円/日)	
13	定員数	入所部門:20人	
14	平均要介護度	4.0	
15	ユニット数	2ユニット(調査時は1ユニットのみ稼動)	
16	ユニット定員	10人	
17	職員配置	入居者:看護+介護職員(相談員2名含む) 1.6:1	
18	介護職員	常勤 7人(1ユニットのみの配置、相談員2名、看護職2名、介護3名)	
19	日中の介護職員の勤務シフト	1ユニットで固定	
		<p>明け:0時~9時 早出:7時15分~16時</p> <p>日勤:8時30分~18時15分 遅出:9時30分~18時15分</p> <p>夜勤:16時30分~0時</p> <p>上記のシフトは各1名で、毎日相談員1名、看護職1名を配置</p>	
20	1ユニットの職員数(標準)	朝食時:2人、昼食時3人、夕食時:2人	
21	夜勤の勤務体制	1ユニット(10名)で1名(調査時は1ユニットのみ稼動)	
22	夜勤の勤務時間	16時間	

2. サテライトと本体との協力関係

1	全般	施設長	本体と兼務
		生活相談員	サテライト専属
		事務員	本体と兼務
2	医療	医師	本体と兼務(囑託医が兼務)
		看護	サテライト専属 毎日1名が常駐。看護職も介護シフトの中に入って介護業務を行う。
3	食事	栄養士	本体と兼務
		調理員	本体で主菜は作り、サテライトでご飯、味噌汁を温め盛り付けを行う
		調理方法	サテライトと本体と共同で作る 本体施設のセントラルキッチン(真空低温調理)で作り、サテライトのキッチンで再加熱やご飯、味噌汁を作る。 サテライトには毎日1名の調理員が常駐(9時~17時)。勤務シフトは2人。 食材は3食合わせて前日に運ばれサテライトの冷蔵・冷凍庫で保管される
4	協力上の特徴	<p>1.看護:常に毎日1名の看護職の配置を行っている。 1ユニット単独では介護職のシフトが組めないため、看護職も介護職のシフトの中に入り介護業務も行う。</p> <p>2.医療:囑託医は本体とサテライトが同一でなければならないが、サテライトまで車で40分かかるため系列診療所(車で10分)の協力も仰いでいる。</p> <p>3.調理:キザミ食はセントラルキッチンで行い、ミキサー食はサテライトで行う。</p> <p>4.事務:LANを用いて本体で行う</p>	

図表 1-67 サテライト施設の概要

### 3. サテライト導入の経緯

特養内の居住環境を向上させるためには個室が必要と考え、本体の定員を減らすためにサテライトの特区申請を申し込んだ。サテライトの土地選定は、既に法人が有している土地の中から選び、彦島地区にあるケアハウスの駐車場用地に決めた。ケアハウスに隣接して建設したのは、ケアハウス入居者の重度化を想定し、環境移行が少ない中で受け入れることができる施設を建設するためである。

### 4. サテライトへの転居が入居者・家族・地域住民に与える影響

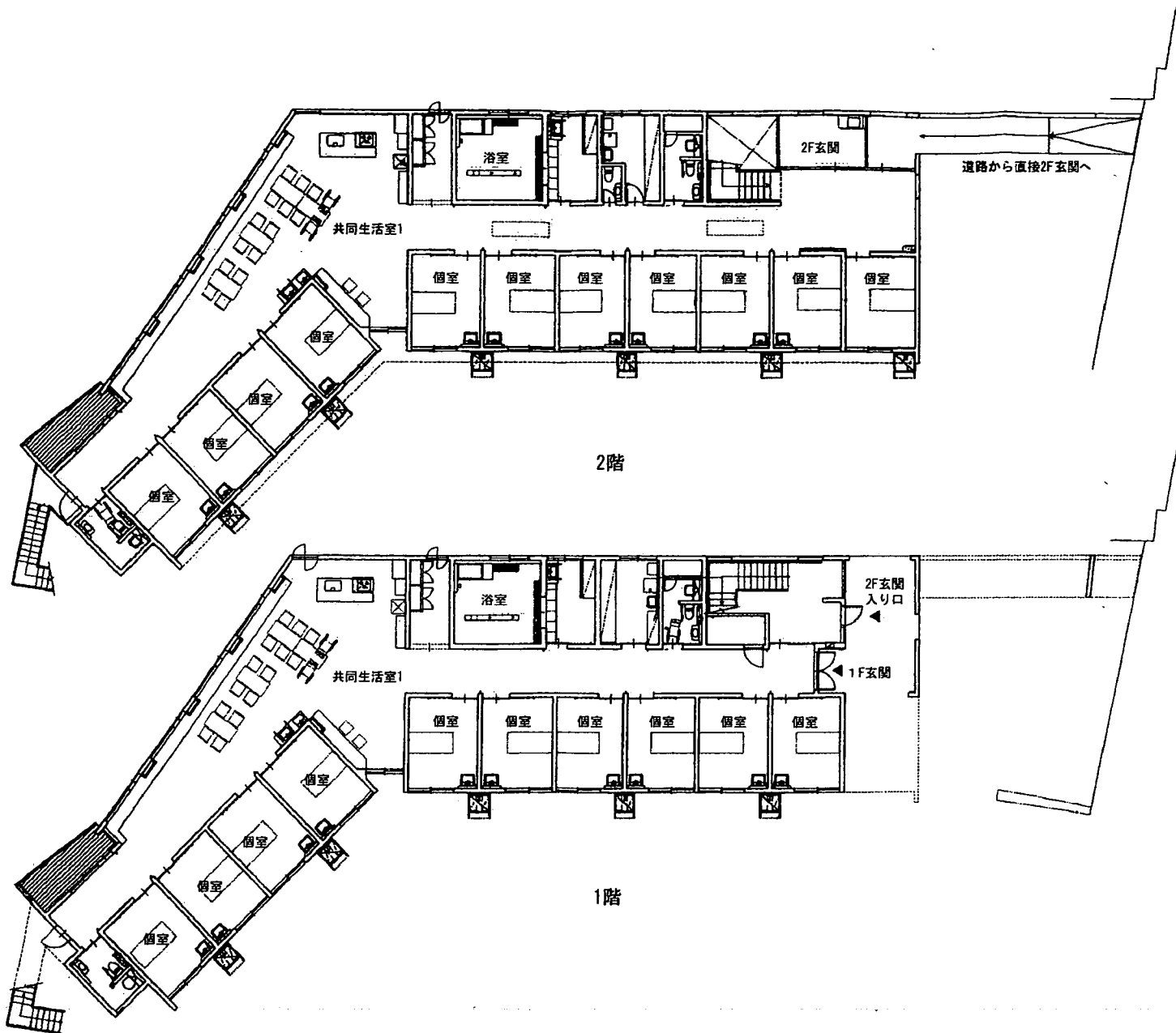
1	本体から移動した利用者の選定理由
本体からの移動人数 10人	
サテライトの立地している彦島地区の方と、家族が同地区に住んでいる人に対して優先的に入居してもらっている。	
2	サテライトへ移ることによる利用者の効果
個室・ユニット化により居住環境が向上している。家族が住んでいる地域に近いという立地と個室ユニット化の影響により、家族の面会時間が長くなっている。	
3	サテライトへの移行に伴う課題
現在、本体に入居している人の中に彦島地区に住んでいる人が少ない。 残り1ユニット(10名)については、ホテルコストを考慮した上で本体に空きができると一度、本体に入居してもらい、その後サテライトへ移ってもらうことも考えている。	

### 5. 職員の選定と育成

1	本体からサテライトへ異動した職員の選定理由
サテライトの職員は、指示を待つタイプではなく、自ら考え動くことができる人を選んでおり、経験のある職員を母体施設から派遣した。また、地元からの要望により近隣地区(彦島地区)からも新規採用を行う予定である。	
2	サテライトを開始するまでの職員教育

### 6. 他施設との併設による利点

1	職員配置上の利点
隣接地にケアハウス、グループホームがあり、安心感がある。	
2	設備の共有化における利点
3	在宅機能と入居機能を合わせる利点



図表 1-68 サテライトの平面図 1/300



写真 サテライトの玄関

斜面地に立っているため1階、2階の双方に外部からの入口がある。写真は2階の入口部分。渡り廊下を通して玄関に入る。



写真 サテライトの周辺

サテライト施設の周りは住宅に囲まれている。斜面の反対側は関門海峡である。

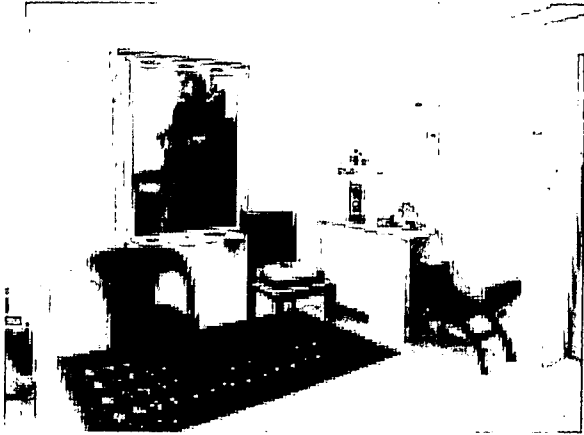


写真 玄関ホール

2階の玄関ホール。外観はシンプルなデザインだが、玄関に入ると絵やいすが置かれており、温かいイメージに包まれる。



写真 廊下部分

中廊下型であるが、居室は一方にしかなく、ドアが連立することはない。照明も間接照明を用いており、全体的に柔らかなイメージである。

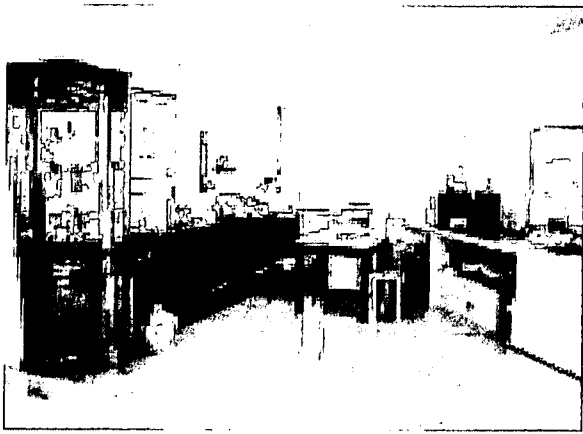


写真 スタッフコーナー

キッチンの斜め向かいにスタッフコーナーがある。オープンなスペースであるが数々の調度品により違和感がない。

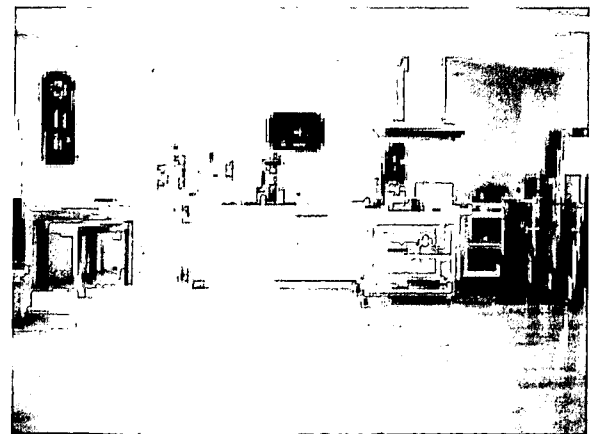


写真 キッチン

各ユニットに一つの広めのキッチンが設けられている。オープンタイプのため、高齢者、介護者双方ともそれぞれの様子がわかりやすい。



写真 共同生活室

廊下と共同生活室は一体化しているが、違和感はない。窓の外の開放感を共同生活室、そして、居室へうまく取り込んでいる。



写真 共同生活室

窓の外は関門海峡であり、絶え間なく通過する船を見ながらくつろぐ事が出来る。窓際にはカウンターといすが設置されている。

1. 本体施設の概要について

1	名称	特別養護老人ホーム はまゆう苑
2	所在地	下関市横野町3丁目15番10号
3	開設年	1986年12月1日
4	建物階数	地上：2階
5	併設サービス	デイサービス、ショートステイ、居宅介護支援事業所
6	敷地面積	4730㎡
7	建築面積・延床面積	建築面積：1163.2㎡、延床面積：2164.5㎡
8	都市計画区域区分	市街化区域、第1種中高層住居専用地域、建蔽率60%、容積率200%
9	建物の構造	RC造
10	平均要介護度	4.54
11	ホテルコスト	多床室：月9600円/月（320円/日）

2. 改修の全体像

現在、20名のサテライトの定員のうち、10名がサテライトに移動しており、残り10名分の空きがある。そこで、未入居の10名分を平成19年3月までには満床にしていきたい。  
サテライトが満床になれば、本体の定員が80人から60になるので一部を個室ユニット化へ改修する予定である。  
改修に際しては4床室4部屋と2床室2部屋を20室の個室にする予定である。

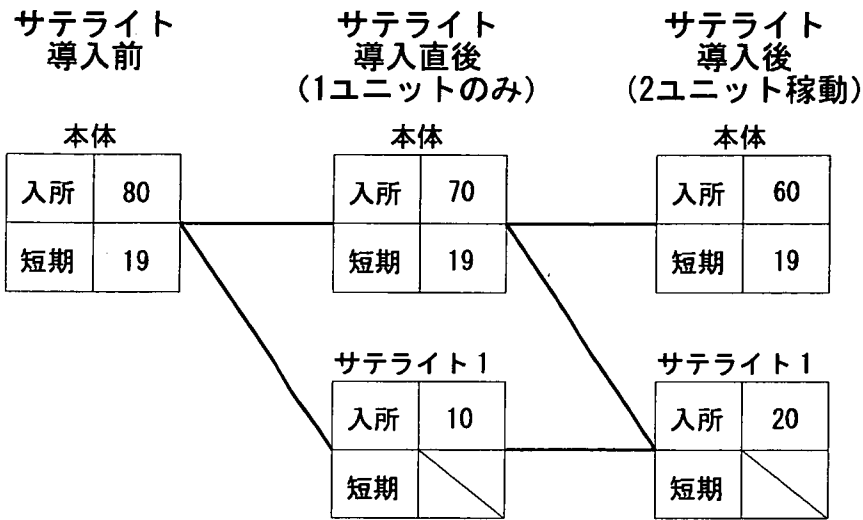
3. 改修の状況

年	内容
	一時期は10名単位でのユニット化を試みたがハードが不十分のため、本体定員が80から60名に減少した後に本体の改修と合わせてユニット化を実施する予定である。 (その際は廊下で食事を行っており、その事は消防法上の問題がありユニットを断念した。)

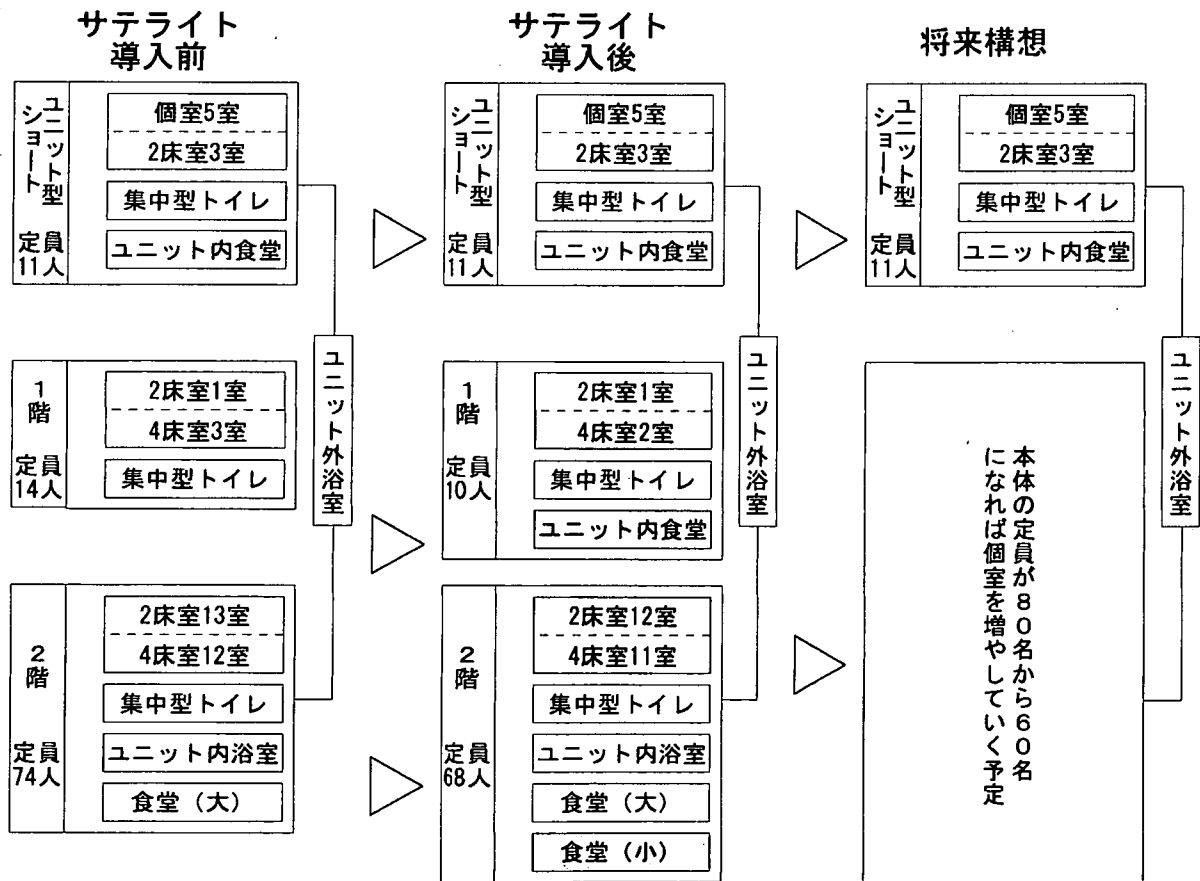
4. ソフト・ハードの概要

		改修前					改修後					
ソフト	定員	入所： 80名 短期入所： 19名					入所： 70名 短期入所： 19名					
	ユニット数	ユニットケアは行っていない(フロア単位)					ユニットケアは行っていない(フロア単位)					
	ユニット定員	1階：入所14名、ユニット型ショート11名 2階：入所66名、ショート8名					1階：入所10名、ユニット型ショート11名 2階：入所60名、ショート8名					
	職員配置 入居者：看護+介護職員	2.1：1					2.2：1(サテライトも含めて)					
ハード	居室	部屋数	個室1	個室2	2床室	4床室	その他	個室1	個室2	2床室	4床室	その他
			5		17	15		5		16	13	
	改修内容	各居室に洗面、トイレなどの設備はない。居室構成では、2床室の割合が高い。個室はユニット型ショートの5室のみである。					転出による空部屋は、1階、2階の4床室が食堂、2床室が倉庫として利用されている。また、2階のトイレ部分が浴室に改修されている。					
食堂	ユニット毎の有無	ユニット型ショート以外は、各階に設けられた大規模な食堂を利用。					定員減により生じた空き部屋(4床室2部屋)を食堂として利用。					

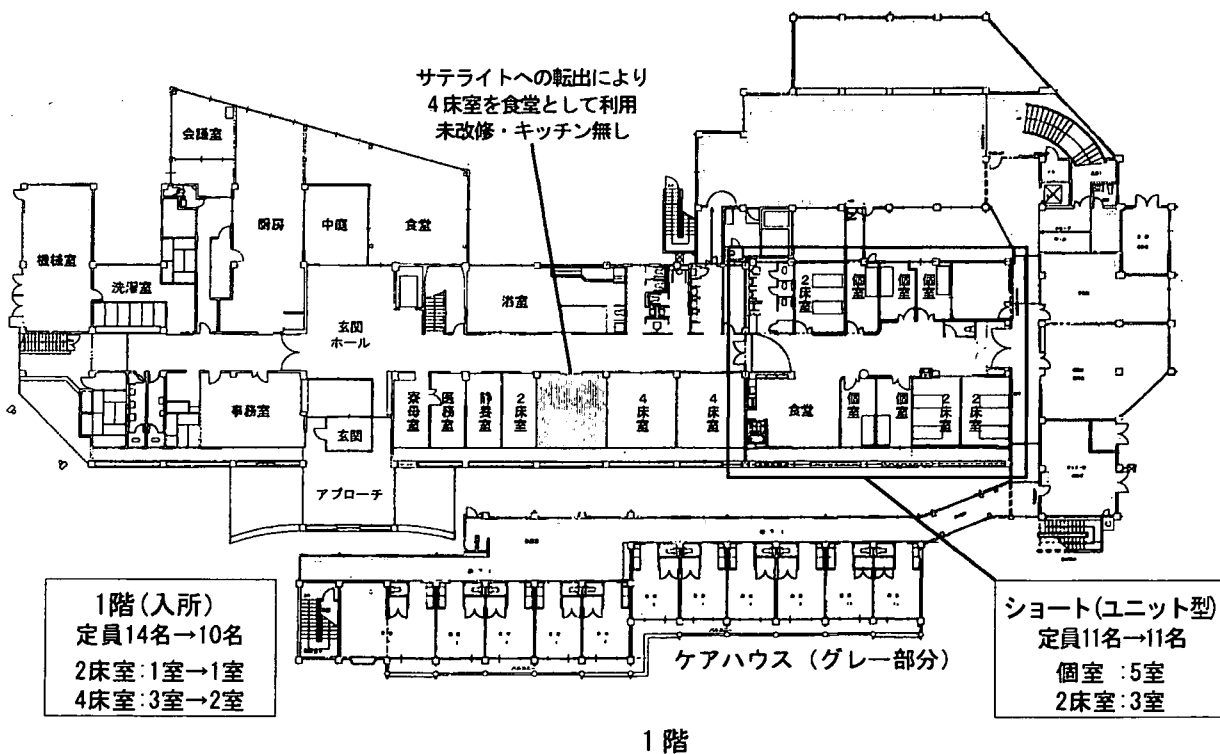
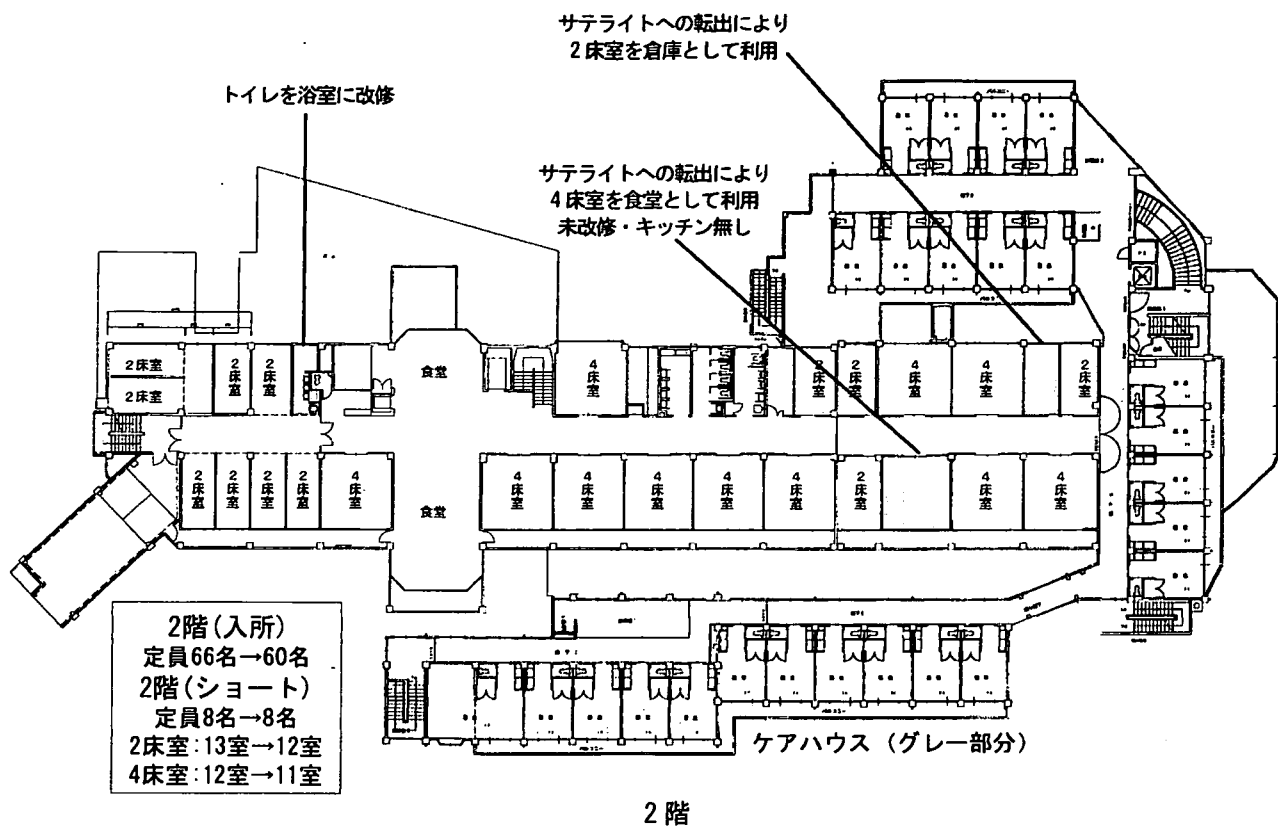
図表 1-69 本体施設の概要



図表 1-70 サテライト展開の概要



図表 1-71 本体改修の概要



図表 1-72 本体施設の平面図 1/600



写真 居室1

ユニット型ショートステイの居室部分。ふすま  
で仕切り2床室とした居室。



写真 2階食堂

2階の食堂スペース。2階の入居者全員分の食  
事スペースが確保されている。



写真 2階浴室

2階に浴室がないため、トイレを改修して個浴  
を設けている。

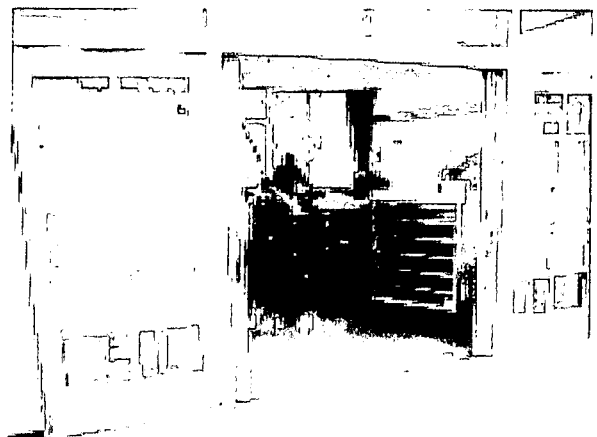


写真 1階食堂

サテライトへ転出した人の居室を食堂として利  
用している。内装は従来そのまま使用している。



写真 居室2

サテライトへ転出した人の居室。調査時には倉  
庫として利用されていた。



写真 2階廊下

2階の廊下部分はトップライトにより明るい。  
直線的なプランであり、廊下の端部から全体を  
見通すことができる。



調査事例 8 社会福祉法人 綾友会	本体施設名	桜の丘特別養護老人ホーム
	サテライト施設名	桜の丘特別養護老人ホームサテライト (桜の丘 綾の家)

#### 法人の概要

社会福祉法人綾友会は、熊本県甲佐町にある医療法人の関連法人として1985年に開設された。当時は、病院での高齢者の社会的入院が問題となっており、長期療養の場として桜の丘特別養護老人ホームを建設した。

桜の丘特別養護老人ホームは、市街地から川を挟んだ丘の上にあり、同一敷地内には、ケアハウス、グループホームがある。いずれも質の高い居住環境を提供している。

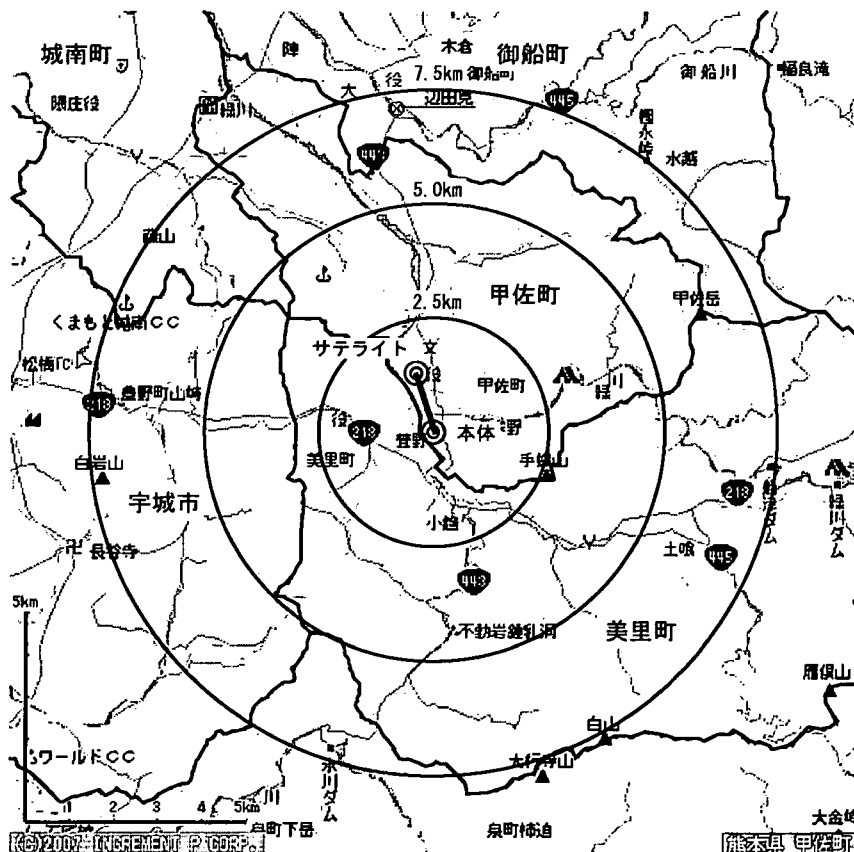
また、桜の丘特別養護老人ホームには、関連病院に入院している高齢者を受け入れてきたという経緯があり、甲佐町だけでなく周辺の町（美里町、御船町）の入居者も多い。

そして、サテライトの整備は、ハードが整っていない本体施設に限界を感じ、居住環境の向上を目的として進められた。立地の選定は、十分な敷地の確保という視点から町役場の跡地が選ばれている。

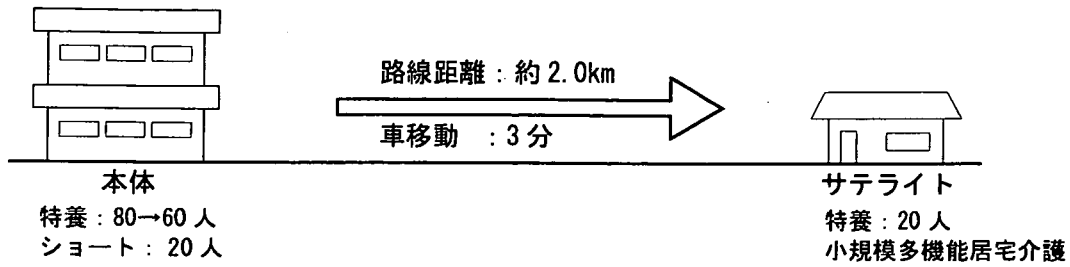
#### 本体およびサテライトの立地と位置関係

本体は、町内の中心部から川を挟んだ丘の上にあり、物理的距離は2.0 kmほどである。本体に通じる交通の便は悪く、バスは1日に1本程度しかない。

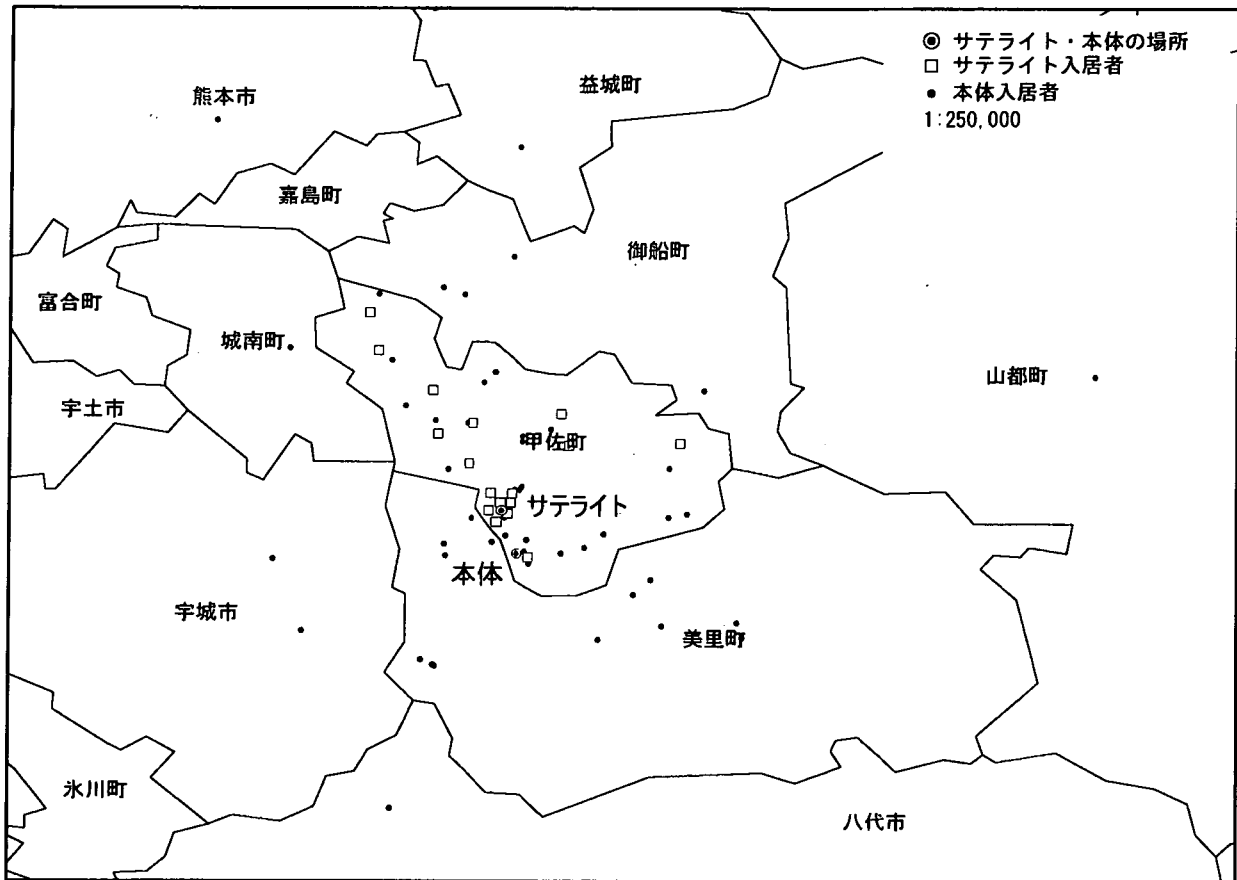
サテライトは、町役場の跡地にある。町内の中心部であり、周辺には住宅や商店が多数ある。新しい町役場や母体の医療法人とも数百メートルの距離にある。本体とサテライトの距離は路線距離で2.0 kmであり、車で移動すると3分程度である。



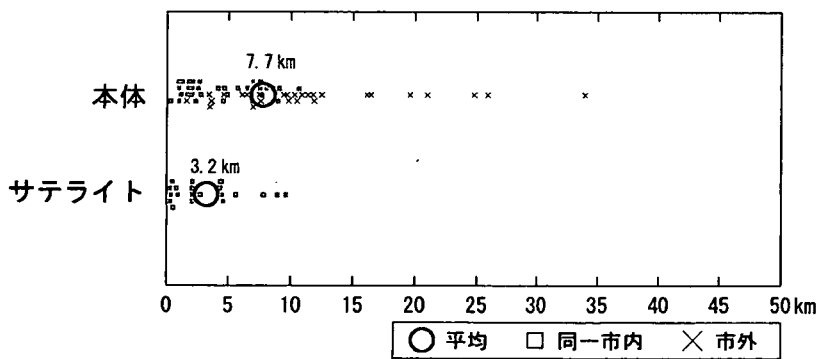
図表 1-73 本体およびサテライトの位置とその関係



図表 1-74 本体およびサテライトの距離



図表 1-75 入居者の前居住地の分布



図表 1-76 本体およびサテライトと前居住地の距離

	熊本県	甲佐町
面積 (km <sup>2</sup> )	7404.83	57.87
人口 (人)	1842233	11604
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	248.8	200.5
高齢者人口 (人)	437244	3637
高齢化率 (%)	23.7	31.3
独居高齢者数 (人)	61645	413

1. サテライト施設の概要について

1	名称	桜の丘特別養護老人ホーム サテライト	
2	開設年	2007年4月23日	
3	所在地	熊本県上益城郡甲佐町大字岩下194-1	
4	本体との距離	路線距離:約2.0km 移動時間:車3分	
5	建物階数	地上:2階	
6	敷地面積	2921.68㎡	
7	建築面積・延床面積	建築面積:1277.64㎡、延床面積:1414.57㎡(内、サテライト部分:825.56㎡)	
8	都市計画区域区分	都市計画区域外	
9	土地・建物の所有形態	土地:法人の自己所有、建物:法人の自己所有	
10	建物の構造	RC造	
11	併設サービス	小規模多機能居宅介護	
12	建設費	建設費用	約2.9億円(内、サテライト部分:1.7億円)
		うち交付金額	5,500万円(サテライト部分:4,000万円)
	リース代	—	
	ホテルコスト	59,100円/月 (1,970円/日)	
	食費	41,400円/月 (1,380円/日)	
13	定員数	入所部門:20人	
14	平均要介護度	3.35	
15	ユニット数	2ユニット	
16	ユニット定員	10人:2ユニット	
17	職員配置	入居者:看護+介護職員 1.6:1	
18	介護職員	常勤 10人 非常勤 1.5人 合計11.5人 プラス有償ボランティア	
19	日中の介護職員の勤務シフト	1ユニットで固定	
		早出:7:00~16:00 日勤:8:00~17:30 もしくは 9:30~19:00 遅出:13:00~22:00 夜勤:22:00~翌7:30 2ユニットで1人	
20	1ユニットの職員数(標準)	朝食時:2人、昼食時2~3人、夕食時:2人(有償ボランティアを含む)	
21	夜勤の勤務体制	2ユニット(20名)で1人	
22	夜勤の勤務時間	8時間	

2. サテライトと本体との協力関係

1	全般	施設長	本体と兼務
		生活相談員	サテライト専属
2	医療	事務員	本体と兼務
		医師	本体と兼務
		看護	サテライト専属(サテライトに常勤1名、小規模多機能に常勤1名) 日中は常時1名配置。小規模多機能を連携をとり建物内で常時1名を確保
3	食事	栄養士	本体と兼務
		調理員	サテライト専属
		調理方法	サテライトのキッチンで全ての調理を作る 食材の検品、下ごしらえ(野菜の洗浄など)は本体で行う。調理はサテライトの各ユニットに1箇所ずつ配置されたキッチン的一方を使って専属の調理員(2名)が行う。メニューは本体と兼務している栄養士が考える。スチームコンベクションを使って大量の調理を効率よく作っている。
4	協力上の特徴	1.看護:サテライトと小規模多機能の双方に常勤を1名配置。 小規模多機能と連携をとり日中は常に1名以上が勤務している。 2.調理:サテライトのキッチンにて小規模多機能の調理を行っている。 3.事務:LANを用いて本体と情報を共有化	

図表 1-77 サテライト施設の概要

### 3. サテライト導入の経緯

2003年から本体施設において部分的にユニットケアを実施している。しかし、ハード面での無理があり、ユニットケアを継続することが困難であった。そこで、ユニットケアの実施および居住性の向上を目的としてサテライトの申請を行った。  
立地は、甲佐町の役場の移転に伴う跡地である。関連の医療法人が数十メートルの距離にあり、連携がとりやすい。

### 4. サテライトへの転居が入居者・家族・地域住民に与える影響

1	本体から移動した利用者の選定理由
本体からの移動人数 16人	
本体には、甲佐町、美里町、御船町の人がいるが、地域密着型サービスに対する行政指導により、サテライトの利用者は甲佐町の人に限定されている。 最初の希望者は4名程度であり、その後の説明により16名がサテライトに移った。希望者の中には経済的理由から断念する人もいた。また、残りの4名は本体と隣接しているグループホームからの1名とケアハウスからの3名である。いずれも常時身体的な介護を必要な人であり、多床室のため本体への入所を控えていた人たちである。	
2	サテライトへ移ることによる利用者の効果
スタッフとの距離が近くなり、コミュニケーションの増加やADLの向上がみられた。町の中心部にあるため、銀行や買い物などの日常的な外出が可能となった。家族の面会頻度も増え、リビングで一緒にくつろぐなど、家族の過ごし方に変化があった。	
3	サテライトへの移行に伴う課題
町の中心部にあるため、近隣住民との付き合いなどに工夫や気遣いが必要になる。行事、防災訓練などは事前に連絡し、理解と協力を得る必要がある。	

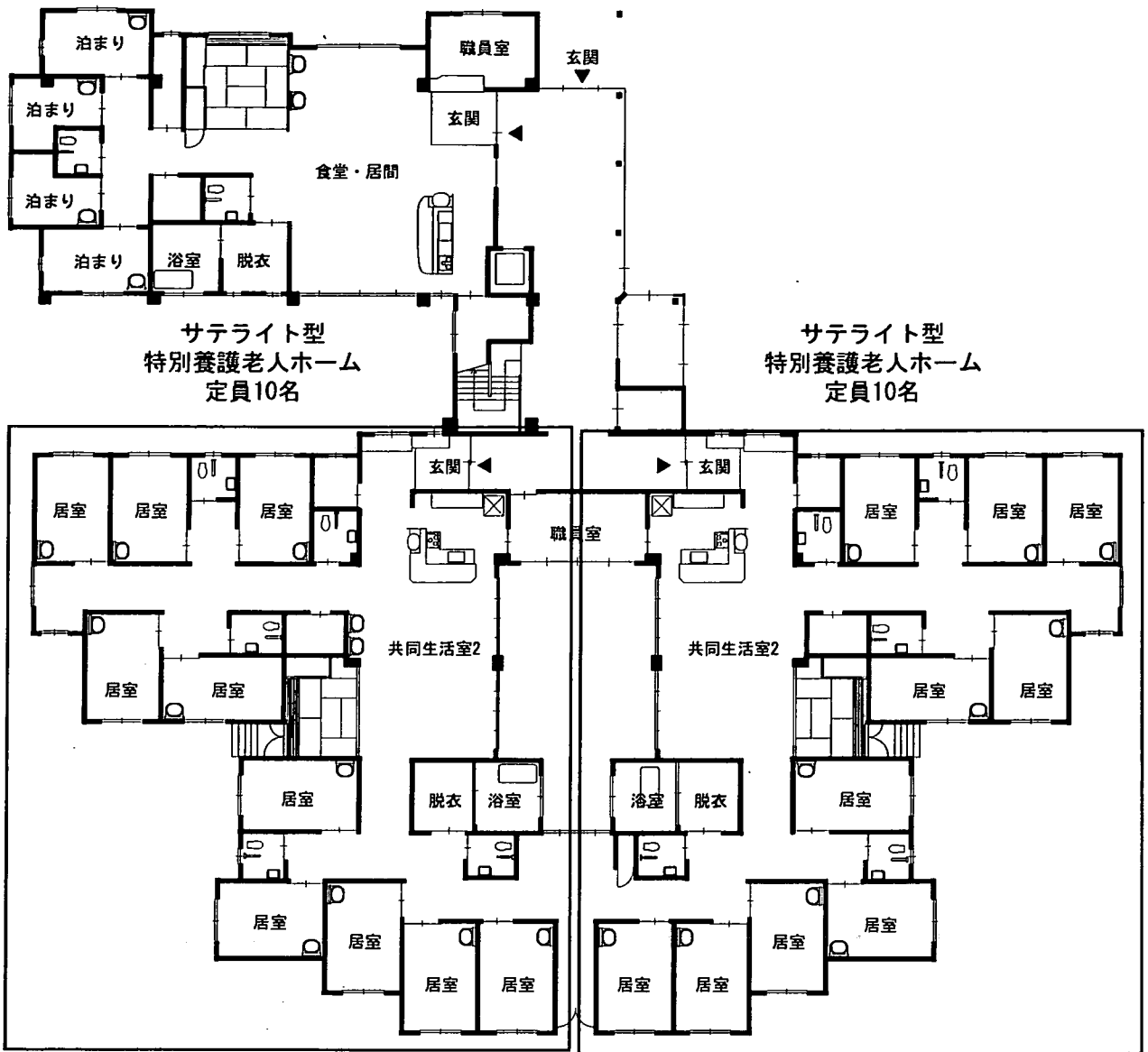
### 5. 職員の選定と育成

1	本体からサテライトへ異動した職員の選定理由
ユニットリーダーを任命し、その他の介護職員の選定はリーダーに一任した。小規模な空間での介護となるため、落ち着いたイメージの職員が選ばれている。 看護師は、本体にて希望者を募り、希望者がサテライトに移った。	
2	職員教育
介護職員全体を数グループにわけ、1泊研修を毎年実施している。その中で、施設全体としての共通意識を養っている。 また、母体の医療法人と連携をとり、ターミナルケアの勉強会などを行っている。	

### 6. 小規模多機能居宅介護との併設における利点

1	職員配置上の利点
小規模多機能との連携により、毎日、看護職員を1名以上確保している。 小規模多機能の食事をサテライトのキッチンで作っている。	
2	設備の共有化における利点
なし	
3	在宅機能と入居機能を合わせる利点
小規模多機能からサテライトへ移る利用者の環境移行の負荷が少ない。 今後の課題としてサテライトと小規模多機能の利用者の日常的な交流を作り出していくことを考えている。	

小規模多機能居宅介護



図表 1-78 サテライトの平面図 1/300



写真 外観

全体外観。和風の作り。町役場の跡地であるため、立地条件はよい。



写真 施設全体の玄関

施設全体の玄関部分。右が小規模多機能の玄関、奥がサテライト型特養の玄関。



写真 共同生活室

中庭に面して設けられている。食事スペースのほかに、ソファスペースや畳の小上がリスペースがある。



写真 キッチン

全ての料理をユニット内キッチンで作る。職員室を挟んで、2ユニットのキッチンが設けられており、連携がとりやすい。

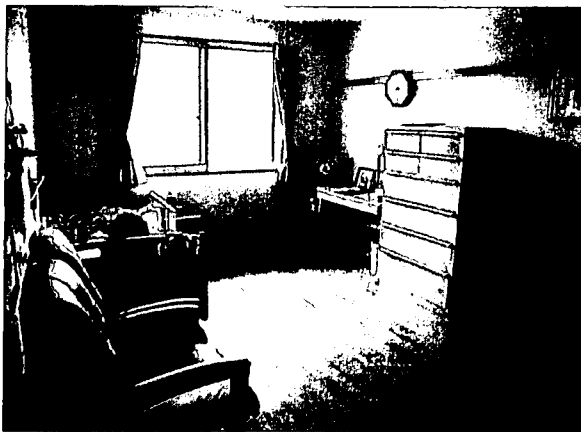


写真 個室

サテライト型特別養護老人ホームの個室。洗面あり。



写真 サテライトの浴室

各ユニットに1箇所ずつ浴室が設けられている。一つは個室、もう一方は機械浴槽（上写真）である。

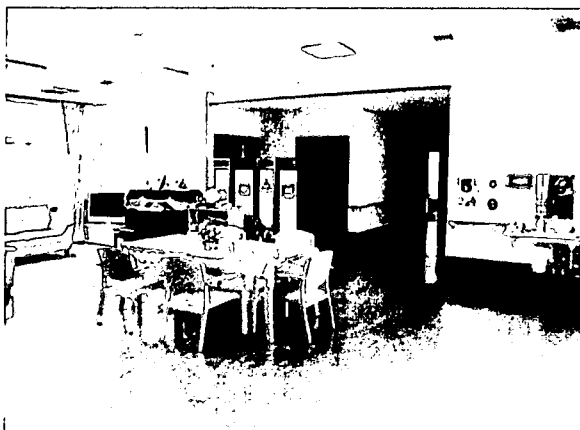


写真 小規模多機能の居間

食事スペースと休息スペース（ソファなど）の双方が設けられている。



写真 小規模多機能のキッチン

食材の搬入経路から直接厨房に食材を運ぶことができる。調査時はサテライト特養のキッチンで小規模分の調理が行われていた。

1. 本体施設の概要について

1	名称	特別養護老人ホーム桜の丘
2	所在地	熊本県上益城郡甲佐町大字西寒野1160-1
3	開設年	1985年4月
4	建物階数	地上：1階
5	併設サービス	訪問介護事業所、隣接地にケアハウス、グループホーム
6	敷地面積	7452.23㎡
7	建築面積・延床面積	建築面積：1638.28㎡、延床面積1453.55㎡
8	都市計画区域区分	都市計画区域外
9	建物の構造	RC造
10	平均要介護度	4.03
11	ホテルコスト	多床室：9,600円/月(320円/日)

2. 改修の全体像

2ブロックで構成されている旧館の1ブロックを個室ユニット(10名×2ユニット)に改修予定。改修ユニットには、浴室、トイレ3室を新たに設置。また、改修に伴い中庭部分に増築を行う。  
残りの部分についても、順次改修していく予定であるが、利用者の経済的負担を考慮し多床室も残す予定である。

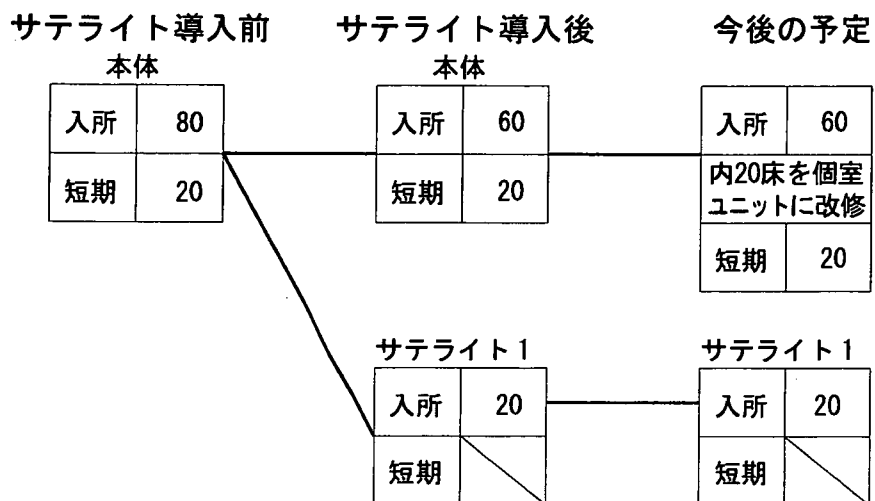
3. 改修の状況

年	内容
1985年	定員50名で開設
1988年	定員80名+ショートステイ20名に増床
2003年～	改修を伴わないユニットケアを施設内で実施
2007年秋	本体のうち20床を個室ユニットに改修 2008年春完成予定

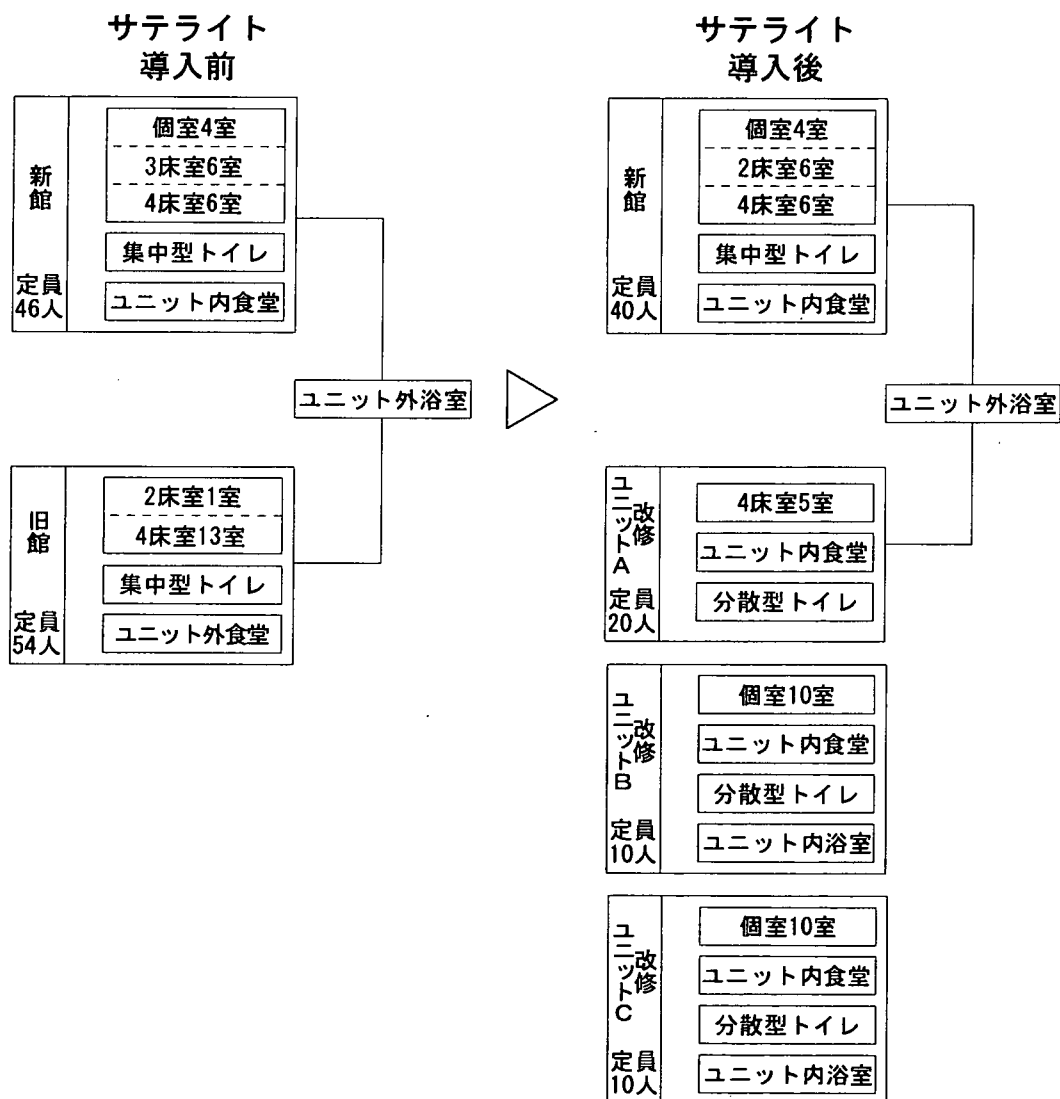
4. ソフト・ハードの概要

		改修前					改修後(予定)					
ソフト	定員	入所： 80名 短期入所： 20名					入所： 60名 短期入所： 20名					
	ユニット数	2ユニット					4ユニット					
	ユニット定員	1グループ：54名 2グループ：46名					10人ユニット×2 20人ユニット×1 40人ユニット×1					
ハード	職員配置 入居者：看護+介護職員	3.9：1					-					
	居室	部屋数	個室	2床室	3床室	4床室	その他	個室	2床室	3床室	4床室	その他
		改修内容	4	1	6	19	0	24	6	0	11	0
	食堂	ユニット毎の有無	旧館にはホールと食堂が2箇所ある 新館にも食堂が1箇所設けられている					旧館(改修部分)：個室3室を食堂に改修 各ユニットに1つの食堂を設ける。 新館：変更なし				

図表 1-79 本体施設の概要



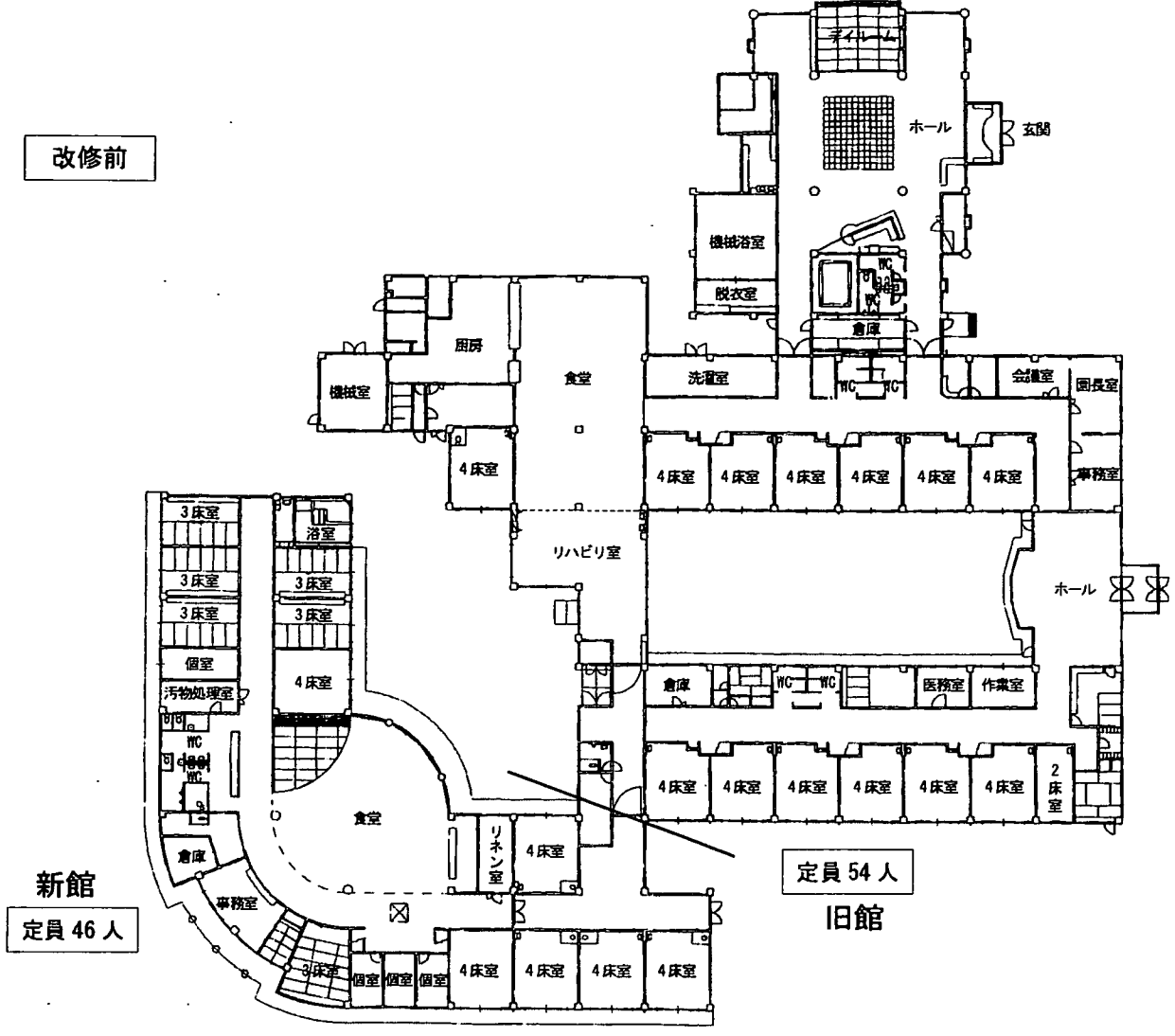
図表 1-80 サテライト展開の概要



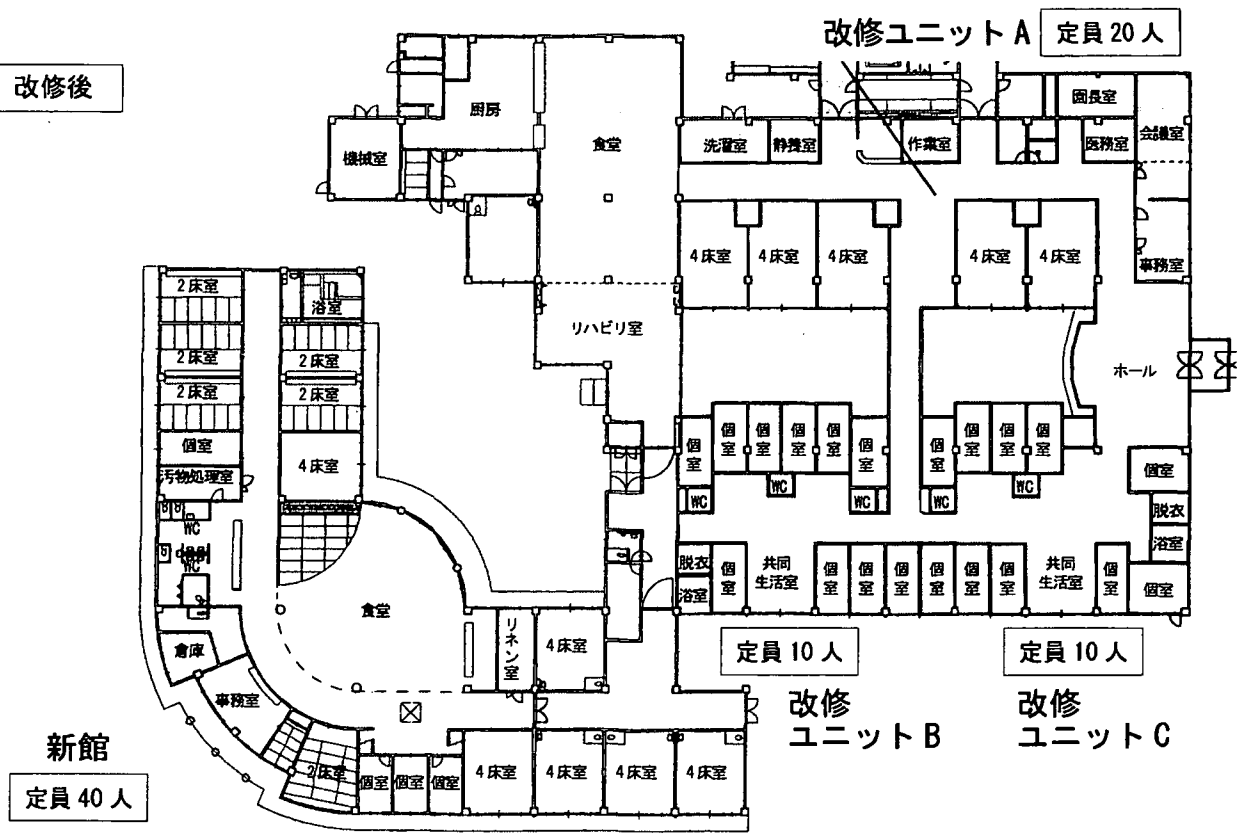
図表 1-81 本体改修の概要



改修前



改修後



図表 1-82 本体施設の平面図 1/600



写真 外観

町内を見渡すことができる丘の上にある。特別養護老人ホームは平屋建て。向かい側にケアハウスがある。

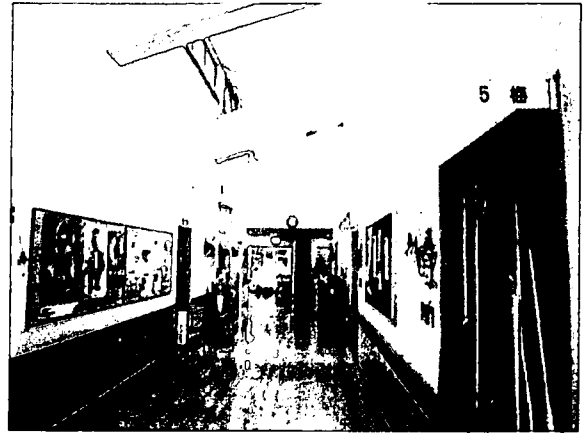


写真 旧館廊下

旧館の廊下。天井高は高く、天窓もあり明るい。片側に4床室、もう一方にトイレや浴室がある。

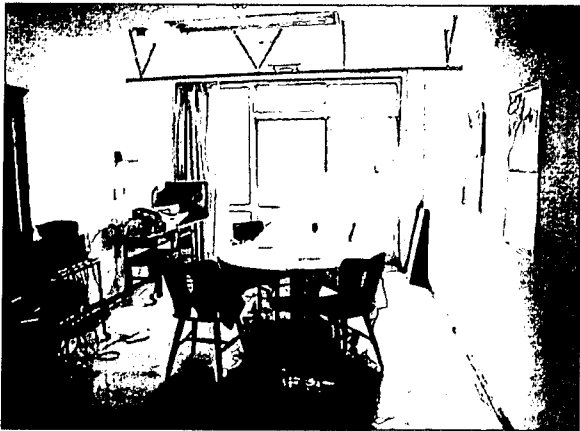


写真 食堂

サテライトに伴う空き部屋（2床室）を、食堂として利用。



写真 旧館の食堂

食堂スペース。天井が高い。



写真 浴室

旧館の浴室。機械浴槽2台と、大浴槽がある。大浴槽の利用者は少ない。

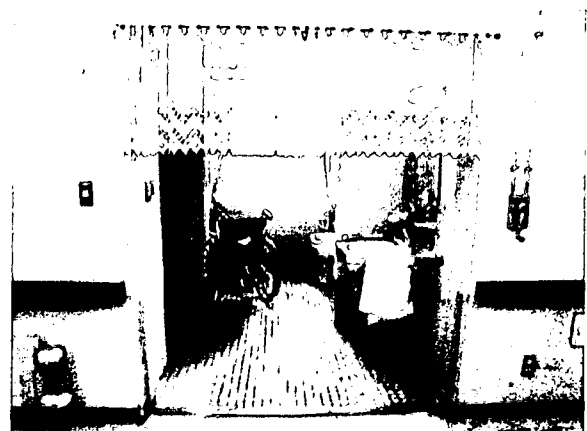


写真 トイレ

居室と廊下を挟んで設けられた集中配置型のトイレ。

## Ⅱ. 分担研究報告書

### 2. サテライト化およびユニット型が家族の訪問に与える影響に関する研究

サテライト化およびユニット型が家族の訪問に与える影響に関する研究

主任研究者 井上 由起子（国立保健医療科学院施設科学部施設環境評価室長）

研究要旨

本研究では、1章で取り上げた事例の中から2施設を取り上げ、本体施設とサテライト施設を比較することにより、まちなか居住および個室・ユニット型という立地特性と空間構成の違いが家族の訪問頻度や滞在時の過ごし方に与える効果についての検証を行った。

得られた結論は以下の通りである。

①訪問頻度の変化

本体施設よりもサテライト施設の方が家族の訪問回数が多くなる。家族の自宅と施設の距離が近くなることにより、数ヶ月に1回、月に1回という訪問回数の少ない家族の頻度が増加することを明らかにした。

②交通手段の変化

本体では、自動車やバスなどが全体の98%と97%を占めているが、サテライトでは徒歩の割合が増加する。徒歩以外にもタクシーの利用が増加しており、高齢な訪問者にとって徒歩や気軽にタクシーを利用できる距離にあることが重要であると考えられる。

③滞在時の過ごし方

個室・ユニット型となることにより個室内での過ごし方には大きな変化が見られた。サテライトの個室には、いすやソファが持ち込まれ訪問時の環境がセッティングされていた。個室になることにより室内での家族の行為が多様になり、個室は入居者の居場所としてだけでなく、家族が入居者に介護を行う場所、自らが休息する場所、宿泊する場所として使用されていた。

研究協力者

山口健太郎：国立保健医療科学院

A. 研究目的

特別養護老人ホームのサテライト化は、①住み慣れた地域での居住継続、②まちなか居住による地域資源の活用、③外部からアクセスしやすい開かれた施設を目的として進められている。地域に出て行く、迎え入れるという双方向の効果が期待できるが、認知症や身体的なマヒによって一人での外出が困難な施設入居者に

とって、外部からの訪問、特に家族の訪問は精神的なケアの面において重要な役割を担う。また、多床室大規模型から個室・ユニット型という空間の変化が、訪問者の過ごし方を大きく変えるという側面もある。

本章では、1章で取り上げた事例の中から2施設を取り上げ、本体施設とサテライト施設を比較することにより、まちなか居住および個室・ユニット型という立地特性と空間構成の違いが家族の訪問頻度や滞在時の過ごし方に与える効果について検証することを目的とする。